サーバー移行方法

本ドキュメントの対象バージョンは v10 以降です。

1） 移行元サーバーで稼働している IMail Server のサービスを全て停止します。

2） 移行元サーバーで下記情報をバックアップ

(1) IMail インストールディレクトリ(デフォルトの場合)

IMail v11.03 新規インストールした場合、ドライブ名¥Program Files¥ipswitch をバックアップ

※64 bit OS の場合はドライブ名¥Program Files (x86)¥ipswitch をバックアップ

IMail v8.2 からアップした場合、ドライブ名¥IMail をバックアップ

(2) レジストリ

≪Tips≫

レジストリエディタの起動方法は 32bit OS/64bit OS で異なります。

- 32 bit OS の場合「スタート」-「ファイル名を指定して実行」-「regedit」と入力し「OK」をクリックします。
- 64 bit OS の場合「スタート」-「ファイル名を指定して実行」-「syswow64」-「regedt32.exe」を実行します。

1, ドメイン

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch

2, サービス

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPServer

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥POP3D32

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SYSLOGD

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥IMAP4D32

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥OpenLDAP-slapd

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥QueuMgr

※サービスのレジストリに関しましては「設定を加えているもの」だけをバックアップしても問題ありません。

3, WebMessaging アドレス帳情報

WebMessaging アドレス帳情報は「Microsoft Access Driver (*.mdb)」又は「SQL Server」に保管されます。IMail Server v10 では「Microsoft Access Driver (*.mdb)」がデフォルトで利用されます。IMail Server v11 以降では「Microsoft Access Driver (*.mdb)」又は「SQL Server」の利用が選択できます。

どちらのデーターベースを利用しているかの確認方法は、IMail Server がインストールさ

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

れたサーバーの「ODBC データソース アドミニストレーター」より確認します。
IMail Server でのデーターソース名は「WorkgroupShare」です。この画面の「ドライバー」を確認し、「Microsoft Access Driver (*.mdb)」又は「SQL Server」を判別します。

≪Tips≫

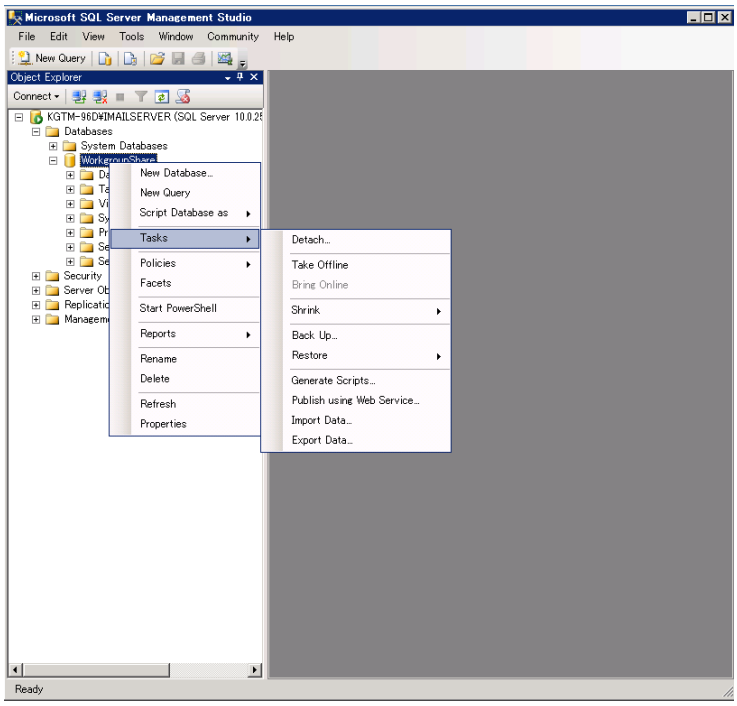
- Windows Server 2003 及び Windows Server 2008 32bit を利用されている場合、スタート － コントロールパネル － 管理ツールより「データソース(ODBC)」を選択します。
- Windows Server 2008 64bit を利用している場合は「ファイル名を指定して実行」より「syswow64」と入力し、「odbcd32.exe」を実行し本画面を起動させてください。

「Microsoft Access Driver (*.mdb)」が選択されている場合、「IMail インストールディレクトリ」をバックアップしますと、実際のデータファイル(WorkgroupShare.mdb)も併せて保管がされます。
※デフォルトの保管ディレクトリは「Ipswitch¥IMail¥WorkgroupShare¥Data」です。

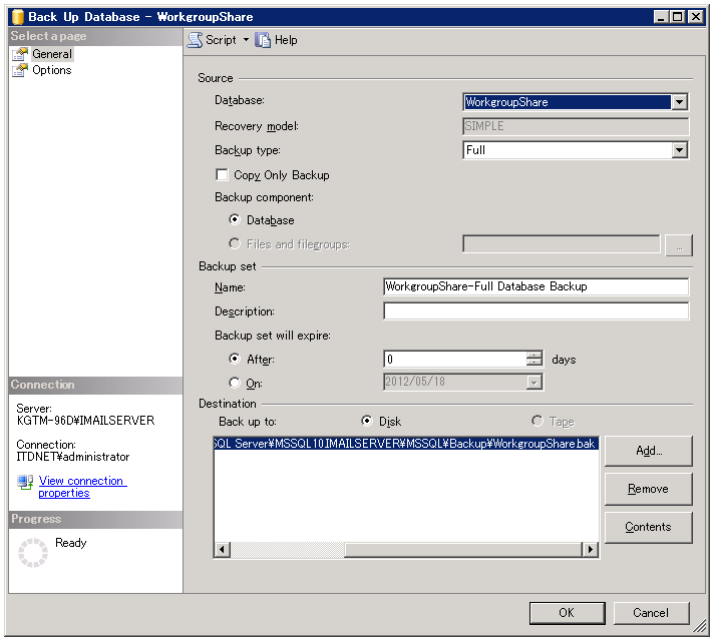
「SQL Server」の場合、データのエクスポートが必要になる場合があります。
このデータエクスポートは「SQL Server Management Studio」から行います。
※SQL Server Management Studio の技術的なサポートについてはお答えする事ができません。
※SQL Server Management Studio は IMail Server v11.00 では同梱しておりません。Web からダウンロードし、設定を行ってください。
※SQL Server を IMail Server とは別のサーバーに構築し、移行後もその SQL Server を利用する場合にはエクスポート作業は不要です。

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

3-1, SQL Server Management Studio にログインし、Database – WorkgroupShare を右クリックし、「Back Up...」を選択します。



3-2,「OK」をクリックしますと、本画面「Destination」に指定されたディレクトリに「WorkgroupShare.bak」というファイルでバックアップが作成されます。このファイルをバックアップします。



© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

3) 移行元サーバーをディアクティベート

ディアクティベート方法については本ドキュメントの最終ページ「【備考】アクティベート/ディアクティベートについて」をご確認ください。

4) 移行先サーバーで作業する前に

≪注意≫

- IMail Server を Windows Server 2003 サーバーに新規インストールした際、デフォルトのインストールディレクトリが「ドライブ名¥Program Files¥ipswitch」となります。

- IMail Server は 64bit OS にインストールできますが「32bit アプリケーションとして」動作します。その為新規インストールした際、デフォルトのインストールディレクトリが「ドライブ名¥Program Files (x86)¥ipswitch」のパスにインストールされます。

- **64bit OS の「ドライブ名:¥Program Files」直下にインストール又はディレクトリを移動する事は推奨されません。**「ドライブ名:¥Program Files」以外であれば、「ドライブ名:¥ 」直下でも問題ありません。

移行に際し IMail Server のインストールドライブを変更する場合、レジストリの編集が必要になります。編集方法は「ドメイン」と「サービス」で異なります。

(1) ドメインの場合

1,ドメインレジストリ(HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch)をテキストで開きます。

2,パスが記載されている箇所を検索します。

3,パス名を変更します。

例 : "C:¥¥Program files¥¥Ipswitch¥¥IMail" → "C:¥¥Program files (x86)¥¥Ipswitch¥¥IMail"

4,レジストリ内で他に指定されている箇所があるかないかを必ず確認します。

(2) サービスの場合

サービスはパス情報を hex としてレジストリに保管していますので、ドメインのようにレジストリから編集できません。移行先サーバーにレジストリを展開後、手動で各サービスの「ImagePath」の値を編集します。

※この編集の際に"(ダブルクォート)を削除しないように注意してください。また各パスが正確な事も確認してください。

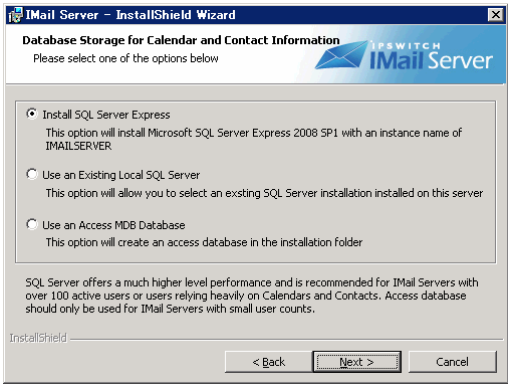
© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

5) 移行先サーバーに**移行元サーバーと同じバージョン**の IMail Server をインストールします。
インストールに関しましては各バージョンのインストールガイドをご参照ください。

≪注意≫

1, 移行元サーバーと移行先サーバーで IMail Server の**バージョンが異なる場合、データ移行は行えません**。

2,IMail Server v11 以降をインストールする場合、下記画面のデーターベースの選択では移行元と同じデーターベースを選択してください。



※IMail Server v10 ではデフォルトで「Microsoft Access Driver (*.mdb)」が利用されるので、インストール中に本画面は表示されません。

3, Windows Server 2008 64bit(R2 等を含む)で動作可能なバージョンは IMail Server v11.03 以降です。アップグレードの為に IMail Server v10 及び IMail Server v11.00 をインストールは可能ですが、その「動作」を保障しておりません。

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

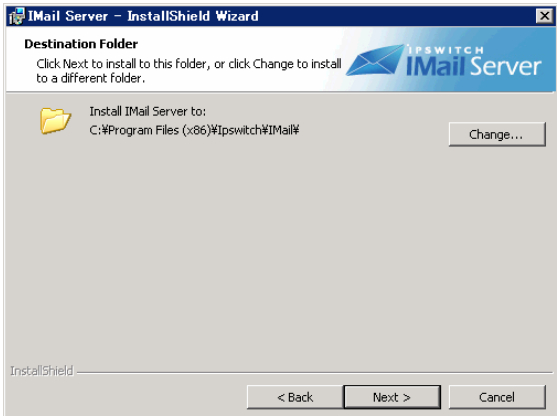
≪Tips≫

移行元サーバーと移行先サーバー間で IMail Server のインストールパスを変更しない場合、インストールの際に、移行元サーバと同じインストールパスにプログラムをインストールします。変更する場合はインストール時の下記画面にて変更します。

64bit OS の「ドライブ名:¥Program Files」直下にインストール又はディレクトリを移動する事は推奨されません。「ドライブ名:¥Program Files」以外であれば、「ドライブ名:¥ 」直下でも問題ありません。

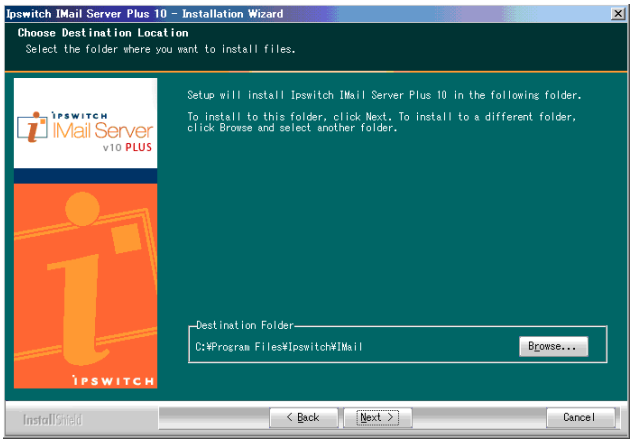
- IMail Server v11 の場合

  「Change...」をクリックし、設定します。



- IMail Server v10 の場合

  「Browse...」をクリックし、設定します。



© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

インストール終了後はIMail Serverで稼働しているサービスを全て停止し、その後ディアクティベートします。ディアクティベート方法については本ドキュメントの最終ページ「【備考】アクティベート/ディアクティベートについて」をご確認ください。

6) 移行先サーバーへの移行

(1) ディレクトリの場合

移行元サーバーと同じディレクトリに上書きコピーします。

※4)にてパスを変更した場合、そのパスにコピーします。

(2) レジストリの場合

1, レジストリエディタを起動します。

≪Tips≫

レジストリエディタの起動方法は32bit OS/64bit OSで異なります。

- 32 bit OSの場合「スタート」-「ファイル名を指定して実行」-「regedit」と入力し「OK」をクリックします。
- 64 bit OSの場合「スタート」-「ファイル名を指定して実行」-「syswow64」-「regedt32.exe」を実行します。

2, レジストリをバックアップし削除します。

3, 「ファイル(F)」-「インポート(I)」よりインポートするレジストリを選択します。

※サービスのレジストリで「パス」変更が必要な場合、インポート後に「ImagePath」の値を編集します。

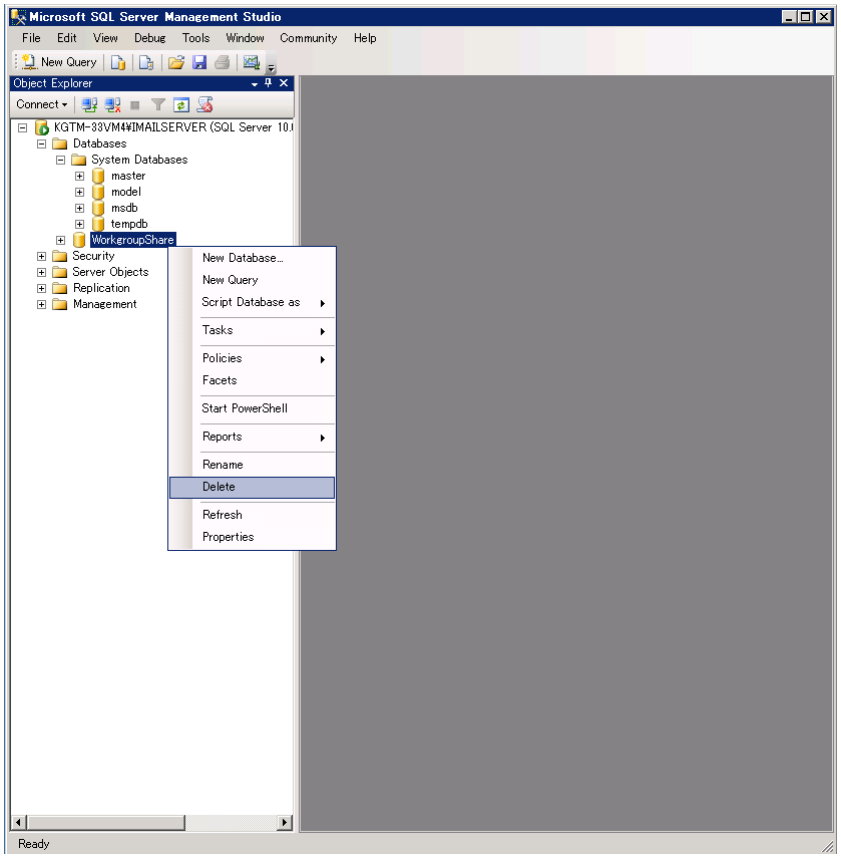
(3) WebMessagingアドレス帳情報

「MDB Database」(WorkgroupShare.mdb)を利用されている場合、上記(1)のディレクトリコピーでデータ移行が終了します。

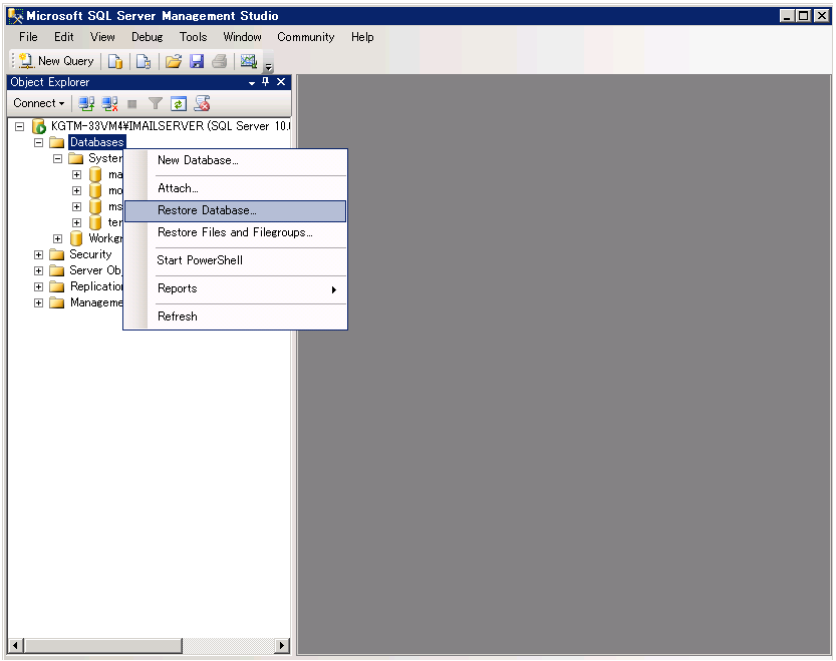
「SQL Server」の場合、SQL Server Management Studioより下記手順でデータをインポートします。

1, SQL Server Management Studioにログインし、Database - WorkgroupShareを右クリックし、「Delete」を選択します。

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.



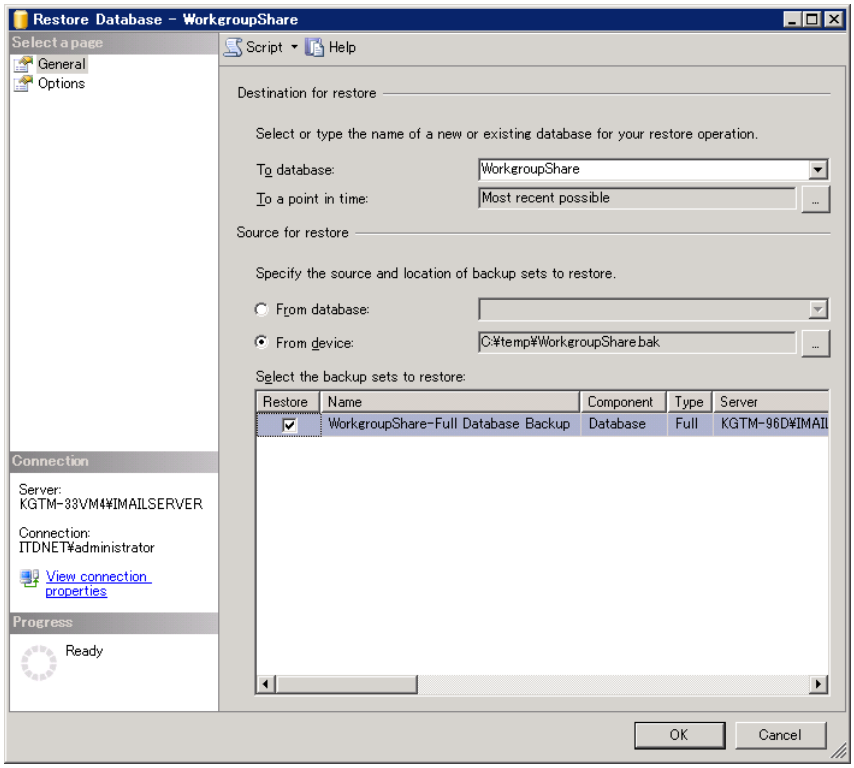
2, Database を右クリックし、「Restore Database」を選択します。



© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

3, 「To database」で WorkgroupShare を選択し、ラジオボタン「From device」を選択し、「...」ボタンより、バックアップした WorkgroupShare.bak を選択します。

「Select the backup sets to restore」より、WorkgroupShare-Full Database Backup の「Restore」のチェックボックスを選択し、「OK」をクリックします。これでインポートが終了します。



7) Ipswitch Activation Utility を起動し、アクティベーションを行います。

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.

【備考】アクティベート/ディアクティベートについて

■アクティベーション

IMail Server v10 以降ではインストールの際にアクティベーションが必要になります。
アクティベーションの情報は開発元である Ipswitch 社にて管理されます。
このアクティベーションにはオンライン・アクティベーション及びオフライン・アクティベーションの 2 つがあります。
各方法につきましては製品のインストールガイドをご確認ください。

■ディアクティベーション

別サーバに IMail Server をインストールされる場合等、事前にディアクティベート(アクティベーションの無効化)を行う必要があります。

スタート -> すべてのプログラム -> Ipswitch IMail Server ->Ipswitch Activation Utility をクリックし、「Deactivate this license on this computer」を選択してディアクティベートをして下さい。
（次へのボタンを押すと「完了」となります。）

ディアクティベート出来ない場合はお手数ですが、サポートセンターまでご連絡下さい。（インターネットに接続されていない環境、サーバがダウンしてしまったなど）

※ディアクティベートした場合、サーバー再起動またはサービス再起動時に QueueManager が停止し、メールの送受信が出来なくなります

© 2013 CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD. All Rights Reserved.